

## 会議録

会議の名称	三鷹駅北口交通環境基本方針策定庁内委員会・アドバイザー委員会 合同会議（令和5年度 第3回）
開催日時	令和6年1月23日（火） 開会時刻 午前10時00分 閉会時刻 午前11時50分
開催場所	武蔵野市役所 811会議室
	府内委員 ◎：委員長 ○：副委員長 ◎都市整備部長 ○都市整備部 まちづくり推進課長 都市整備部 交通企画課長 都市整備部 交通企画課道路整備計画担当課長 都市整備部 道路管理課長 市民部 産業振興課長 市民部 市民活動推進課長
出席者	アドバイザー委員 ◎：委員長 ◎大沢 昌玄 日本大学 理工学部 土木工学科 教授 坂本 邦宏 イーグルバス株式会社 顧問 饗庭 伸 東京都立大学 都市環境学部 都市政策科学科 教授 稲垣 具志 東京都市大学 建築都市デザイン学部 都市工学科 准教授
議題	1 はじめに 2 前回会議（令和5年度 第2回）の振り返り・オープンハウスの開催結果 3 パブリックコメント（意見募集）の結果と対応 4 方針策定後の進め方 5 その他連絡事項
事務局	まちづくり推進課

発言者	発言の要旨
	<p>三鷹駅北口交通環境基本方針策定庁内委員会・アドバイザー委員会 合同会議（令和5年度 第3回）</p> <p>1 はじめに ～事務局より挨拶～</p>
	<p>2 前回会議（令和5年度 第2回）の振り返り・オープンハウスの開催結果 ～事務局より、資料1を説明～</p>
	<p>3 パブリックコメント（意見募集）の結果と対応 ～事務局より、資料1・資料2・資料3を説明し、その後意見交換～</p>
大沢委員	<p><b>パブリックコメントの結果と対応について</b> パブリックコメントについて、肯定的な意見が多くて良いと思う。 交通環境基本方針（以下「本方針」という。）の対象範囲の東側で三鷹駅北口街づくりビジョン（以下「街づくりビジョン」という。）において対象範囲外になっている部分（補助幹線道路と中町新道の交差部周辺）について、街づくりビジョンを改定する際には、対象範囲に含めるのか。必ずしも対象範囲を一致させる必要はないと思うが、今後、交通体系を再編するうえで対象範囲に含めるか検討した方が良い。</p>
事務局	<p>本方針に基づき、交通体系の再編を検討する中で、補助幹線道路と中町新道の交差点付近のつながり方を考えることは、街づくりビジョンの検討事項の一つでもある。対象範囲については、今後検討したい。</p>
稻垣委員	<p>そもそも街づくりビジョンの対象範囲はどのように設定したのか。</p>
事務局	<p>元々の考え方として、対象範囲は商業地域を中心に設定している。</p>
坂本委員	<p>取組4（資料3 P.19）について、文章だけではなく、イラストや図があると具体的で分かりやすい。また、将来像を示したうえで、実現するための取組が記載されている構成は非常に分かりやすくて良い。さらに、将来像と取組を示すだけでなく、各取組によって具体的にどのような将来像が実現されるかを示せると市民にとって、より分かりやすくなると思われる。</p>
事務局	<p>取組4については、現時点での具体的な内容が決まっていないため、「具体的な取組の一例」という形で表現している。</p> <p>将来像を実現するためのステップとして、歩行環境の改善や回遊性の向上等を挙げているが、具体的な将来像としては、取組2の将来イメージ（資料3 P.16）や取組5の沿道の街並みの誘導イメージ（資料3 P.20）などで表現している。</p>
坂本委員	<p>趣旨は理解しているが、例えば、自転車走行空間の分離など、一般の方には理解しにくいため、具体例ではなく、一般論としてどのような分離があるか記載すると良い。</p>

発言者	発言の要旨
交通企画課長	<p>各取組における「期待される効果」について、市民が理解しやすいように生活に直結するような表現で記載できると良い。</p> <p>本方針を策定するにあたって、自転車の課題について相当議論している。特に、駅前広場における自転車と歩行者の分離については重要な課題と認識しており、三鷹駅に限らず吉祥寺駅等にも影響すると考えている。市や交通管理者だけでは解決できない課題であるため、地域住民との連携も必要である。</p>
稲垣委員	<p>取組 4 の写真（資料 3 P. 19）について、何を示しているのか伝わりづらいため、見出しを記載すると良い。むしろ可能であれば、モデルとしての自転車関連整備事例を写真等で示せると良い。</p>
饗庭委員	<p>取組 1～6 が全て実現した際の街の将来イメージがあると良い。駅周辺における活動のイメージ（資料 3 P. 11）のような全体図に各取組のイメージを追記すると、市民等にとってより理解しやすいと思われる。</p> <p>パブリックコメント（資料 2）について、歩行空間の向上を求める意見は多くあるが、滞留空間については意見が少ない。三鷹駅北口でも人々が留まる空間を創出していくのであれば、子どもや福祉等の関係部署に意見を聞きながら検討すると良い。</p> <p>緑に関する意見が多くあるように感じた。街路樹を管理する道路管理者と樹木を保全する公園管理者では緑に対する視点が異なるため、関係部署と意見交換を行いながら検討した方が良い。夏は外を歩けないほど暑くなるため、単に歩きやすい空間を作っただけでは利用されない可能性がある。簡単な解決方法は街路樹で日陰を作ることである。街路樹は一朝一夕に育たないため、長期的にどのように配置し、日陰を作っていくか検討できると良い。また、取組 5 より取組 6 に関する意見が多かったため、市民は沿道の街並みよりも緑の整備を求めているのかもしれない。取組 5 は、民間事業者に協力を求めていくことになると思うが、厳しく求めない代わりに緑の植栽を求める等、取組 6 に注力することも一つの方向性として考えられる。</p> <p>「再整備が行われる整然とした区域の後背地が大事である」という主旨の意見はとても良い視点であると思う。後背地におけるリノベーションの促進や地元の個人商店の建替え費用に対する補助等、後背地に対する支援についても検討できるといい。</p>
事務局	<p>駅前広場の滞留空間については、パブリックコメントだけでは市民要望を把握しきれていない部分もあるため、子どもや高齢者等の関係部署と情報交換を行いながら検討していきたい。</p>
まちづくり推進課長	<p>取組 5 について、具体例がなかったため、パブリックコメントでは意見が出にくい状況であったように思われる。一般の方でも分かりやすいような具体例について、今後、検討を深めたい。</p>
都市整備部	<p>滞留空間は非常に重要である。例えば、玉川上水の緑や近くの道路空間には滞留</p>

発言者	発言の要旨
長 饗庭委員	<p>空間が必要である。また、道路空間で滞留空間を創出できない場所については、私有地と連携して創出できると良いと考えている。</p> <p>市のまちづくりにとって緑は重要な要素となっている。これまで大木を生かす方針で維持管理を行ってきたが、近年、更新が必要な大木が増えているため、改めて方針を検討する必要がある。一方で、近年の夏の暑さを考えると、枝振りの大きい街路樹は重要であるため、更新等については樹木を管理する部署と連携して検討していきたい。</p>
都市整備部 長	<p>将来イメージの左図（資料 3 P. 13）において、玉川上水付近の歩道が狭いように感じる。玉川上水付近の滞留空間を大切にするのであれば、もう少し余裕を持って検討していくと良い。</p>
坂木委員	<p>次のステップである街づくりビジョンの改定では、緑や滞留空間等についてもう少し具体的に記載したいと考えている。</p>
大沢委員	<p>本方針における「滞留」の定義を明確にした方が良い。例えば、バス停で待つ等交通整理のための滞留やにぎわい等まちづくりのための滞留、地域性によっても滞留の定義は異なる。通行者のためだけではなく、駅前広場を利用する全ての人のための滞留をイメージとして示せると良い。</p> <p>職員向けにアンケートを実施したと聞いており、非常に良い取組であるため、参考資料に記載しても良いのではないか。</p>
事務局	<p>滞留のあり方について、交通環境基本方針であるため、交通の視点に重きが置かれてしまうが、道路空間の再配分を検討する際には、歩行空間の交通機能と滞留機能のバランスについて議論すべきである。検討にあたっては、交通機能を確保したうえで、余剰空間を滞留機能にするのではなく、滞留空間の使い方を検討したうえで、交通機能と滞留機能それぞれで必要となる空間を確保して配置できると良い。</p> <p>パブリックコメントでは送迎に関する意見があったが、駅前広場の面積には限りがあるため、一般車両と福祉車両の乗降スペースを設けて全ての要望に応えるのではなく、路外で駐車場を設けてもらうなど民間と連携して対応できると良い。例えば、再開発事業等によって設置される民間駐車場を活用する等が考えられる。</p>
大沢委員	<p>歩行空間と滞留空間のバランスの検討も含め、道路空間を活用した社会実験を継続的に行っている。来年度も沿道店舗と連携しながら三鷹駅北口に合った道路空間の活用について検討していきたい。</p>
稲垣委員	<p>駅前広場について補足であるが、本方針の目標時期である概ね 2030 年代までに自動運転化が普及する可能性があるため、将来を見据えた駅前広場の乗降スペースについても検討できると良い。</p> <p>ユニバーサルデザインは個別の取組では言及されているが、まちづくりの根幹的な考え方に関わる概念であるため、駅周辺における交通環境の将来像（資料 3 P. 11）の中で言及できると良い。</p>

発言者	発言の要旨
	<p>交通環境の取組方針（資料3 P.12）における駅前広場では、「ユニバーサルデザインへの配慮」と「冗長性の確保（将来の変化への対応）」が並列して記載されているが、冗長性は将来の技術進展等に対する備えのような意味合いがあり、ユニバーサルデザインの位置付けとは異なるため、分けて記載した方が良い。</p> <p>取組1の検討の進め方における「レイアウト」（資料3 P.14）の記載について、唐突感があり、どのようなことを示しているか分かりにくいため、工夫して記載すると良い。</p> <p>一度に長時間歩けない人等のために、所々に短時間の休憩ができるスペースを設けるとともに緑による日陰を配置できると良い。通行や長時間の滞留でもないような滞留のニーズもあるため、計画の中で検討できると良い。</p> <p>参考資料の地域展開（資料3 P.参-2～参-3）において、例えば、「平日に行ったオープンハウスでは働く人の意見を聞くことができた」等、開催結果の記載があると良い。</p> <p>駅前広場のような「交通結節点として利用する自転車利用者」と「通過する自転車利用者」が混在している空間のマネジメントについては、非常に難しい課題であると認識している。</p>
饗庭委員	<p><b>4 方針策定後の進め方</b>      ～事務局より、資料1を説明し、その後意見交換～</p> <p><b>方針策定後の進め方について</b>      エリアマネジメント団体等を組織化する予定はあるのか。全て市で整備等行うことは難しいため、エリアマネジメント団体等が活動できる仕組みづくりの検討を始めた方が良い。</p>
都市整備部長	<p>これまでワークショップや研究会等の中で様々なステークホルダーの方に三鷹駅北口の再整備について検討していただいており、市の単独ではなく、地域の方々との協力・連携の下、進めるべきであると考えている。今後も検討を続け、早めに体制については発信していきたい。</p>
交通企画課長	<p>今後、社会実験を進めていくうえで、交通管理者とはどの場面で協議していくことを考えているか。</p>
事務局	<p>交通環境を大きく変更するためには社会実験を繰り返し行い、検証する必要があると考えている。社会実験の規模も大きくなるため、今後の進め方について警視庁へ事前相談を行い、交通管理者としての視点を確認したいと考えている。</p>
大沢委員	<p>本方針の取組内容の規模になると警視庁との協議が重要になると思われるため、早めに相談した方が良い。</p>
交通企画課 道路整備計	<p>道路設計の部署としては、植栽の配置やバリアフリー整備等、実現できる整備形態には優先順位があるため、社会実験では、実現したい交通体系の条件をできるだ</p>

発言者	発言の要旨
画担当課長	け満たす状態で行い、どのような課題が生じるかを検証できると良い。
饗庭委員	<p>今後の検討体制イメージ（たたき台）の企画検討の場（資料1 P.18）に参加する人々がエリアマネジメント団体の主体になると思うため、例えば、社会実験を仕事として成り立つように商業者の方に実施してもらい、商売の目線でも検証できるような枠組みを作るのも良いと思う。また、アウトリーチ方式の社会実験を通して、通常利用されない方も巻き込むことが望ましい。</p>
	<p>活用が期待される制度や新技術として、国土交通省の PLATEAU がある。駅前空間をウェブ上で公開し、市民から意見をもらうなど活用できるのではないか。また、駅前広場空間の再編の検討は大学生の研究課題としても良い取組であるため、連携できると良い。</p>
坂本委員	<p>社会実験については、課題の把握だけでなく地域の機運醸成を図ることも意識して、毎年計画的に実施できると良い。また、オープンハウスでは、例えば、三鷹駅の利用頻度が高い通勤・通学の駅利用者や夜間の駅利用者にも意見が聞けるように開催時間を延ばす等、規模を拡大して開催できると地元の理解が深まると思われる。模型や3D映像を用いて市民と議論を行っている自治体もあるため、地域との関わり方についても検討すると良い。</p> <p>新しいモビリティに対しては、どのような取扱いとするのか、社会実験等を通して柔軟に対応できると良い。</p>
都市整備部長	<p>現在、様々な移動手段があるが、駅前広場内で全ての移動手段のための空間を確保することは難しいと考えている。新たな移動手段に対して道路交通法で規制緩和等も行なわれているため、今後も動向を注視しながら課題解決に努めたい。</p>
大沢委員	<p>駅舎の建替えの可能性や京葉線を三鷹駅まで延伸する構想もあるため、鉄道事業者や東京都の動向を注視した方が良い。</p>
饗庭委員	<p>今後の社会実験では人の流動データも収集できると良い。例えば、収集データを誰もが活用できるデータとして公表し、そのデータをエリアマネジメント団体等が様々な取組に活かし活動資金を確保するといった仕組みができるかもしれない。多くの取組事例があるため、参考にすると良い。</p>
	<p><b>5 その他連絡事項</b>  ～事務局より、連絡事項の説明及び挨拶を行い、閉会～</p>

以上